

区民と区長のタウンミーティング概要

日 時	令和元年9月4日(水) 14時から15時30分
会 場	鷺宮区民活動センター 洋室2
テ ー マ	超高齢社会における地域防災について
出席者 区 民	計 28人
区 側	防災担当課長、 鷺宮すこやか福祉センター所長 鷺宮すこやか福祉センターアウトリーチ推進担当課長
事務局	企画課職員2人、危機管理課職員2人、鷺宮区民活動センター2人
一 時 保 育	無
手 話 通 訳	無

テーマ「超高齢社会における地域防災について」

区長あいさつ

当日は、多くの参加者がいたにもかかわらず、出席することができず申し訳ありませんでした。みなさんのご議論やご意見を直接聞くことができず誠に残念です。本来なら会場で直接コメントするのですが、この場を持って皆さんの発表に対してコメントをさせていただきます。

各グループの発表概要

■町会の防災活動について

- ・町会では、地域に回覧をしたり、パトロールをしたりしている。地域をまとめることができるのは町会である。地域防災で重要な課題は、町会を活性化することではないか。
- ・自治会の防災担当も高齢化しているので、災害があったときに全て自治会で対応するのは無理がある。担い手を増やす必要がある。
- ・防災訓練の参加者は、毎回同じ人で、高齢者が多い。高校生が訓練に参加するよう高校に協力を依頼したらどうか。また、小さい子どもにも参加を依頼したらどうか。教育効果もある。防災訓練の参加人数が増えたら防災意識も高まるのではないか。
- ・若宮三丁目町会では次のような活動をしている。
 - ・月1回防災点検と年1回防災倉庫にある軽可搬ポンプやスタンドパイプの動作確認をし、点検結果を区に報告している。
 - ・防災部員20名いて、英語、中国語、韓国語をわかる人がいる。
 - ・震度5強のときに家政公園に集合し、避難所に行く班と町をパトロールする班に分かれて行動することになっている。
 - ・空き家のパトロールをしている。

■高齢者の避難や防災の備えについて

- ・高齢者の避難については、車を使えないので、移動の問題がある。区がどう考えているのか。
- ・車いす使用者の避難のため、ジンリキ（けん引式車いす補助装置）を区で用意してほしい。
- ・高齢者の中には、防災を他人ごとと思っている人がいる。震災の場合であれば、直後3日間は公助が無くても過ごせるよう、啓発が必要である。また、地震では、家具の転倒の危険がある、特に高齢者には、家具転倒を防ぐ講習をしたほうが良い。

■日頃からのつながりについて

- ・高齢者の避難については、日頃から近所で仲良くして、避難できるようにすると良いのではないか。
- ・最近、地域では、外国人が増えており、コミュニケーションがとりにくいところがある。災害時に外国人とどう連絡をとるのか課題である。

■避難所について

- ・避難所の収容人数の問題について、避難者と避難所の収容人数のバランスがとれているのか。洪水の場合は避難しないといけない状況になる。地震の場合、日中は家にとどまり、夜は不安で避難所へ行くことも考えられる。日中や夜、災害ごとに避難所の収容人数について、洗い出して考える必要があるのではないか。また、このような防災に必要な情報を認識し、共有することが重要である。
- ・避難所では、トイレが大事になるので、トイレ担当の衛生班が必要である。食べ物、飲み物は備蓄するが、トイレは避難所で済ますことになる。避難所ですべての人に対応するのは難しいので、トイレと情報だけがある小さな拠点が多くと良いのではないか。

■その他

- ・地域の防災では、公園と広場が重要である。西中野小の跡地は緑地化してほしい。
- ・参加理由を聞いたところ、地元が好きだからという意見があった。地元が好きだという若者はいると思う、そのような若者を集めてタウンミーティングやってもいいのではないか。

発表に対する区長のコメント

■町会の防災活動について

- ・地域の繋がりの強化が防災の要となっていくことは、十分に認識しています。地域の繋がりの中心となる町会活動については、区も支援していきます。若宮三丁目町会の取り組みは、区内でも先進的であり、地域の意識レベルの高さを感じています。
- ・地域の災害時の担い手について、区でも地域の防災リーダーとなっただけの方を育成するため、平成28年度から新たに「中野区防災リーダー育成講座」を開催し、人材育成を行っています。
- ・若年層の防災訓練への参加は、区としても意識しています。特に中高生の力は、東日本大震災での避難所運営などに大きな力となった事例もあり、訓練参加により、より大きな地域防災力の向上に繋がっていくと考えています。

■高齢者の避難や防災の備えについて

- ・歩行が困難な方のために、区では救出用具として、車椅子や、搬送用の担架を各防災会に配備しているところです。新たな救出用具については、用具の特徴を研究、保管場所なども勘案し、導入の検討をしていきます。
- ・自助による備蓄は、災害発生後、物資の流通がストップしてしまう事から、最低3日間行うことを推奨しています。

■日頃からのつながりについて

- ・日頃からの近所づきあいが、何事にもよい影響を及ぼす可能性が高いと考えています。特に災害時は共助の重要な要素となります。
- ・区内の外国人については、現在2万人弱まで増加しています。この人達をどのように地域の活動に参加させていくかが課題です。区でも、どのようなアプローチができるか、各分野で検討をしていきます。

■避難所について

- ・避難所での、収容数の想定については、「中野区地域防災計画」の中で、被害想定を勘案した数となっており、中野区のホームページでも閲覧することができるようになってきました。日中や夜間など細部の想定については、各避難所の運営会議などで、検討し、対応と準備を共有していけたらと考えています。
- ・トイレについては一番重要な要素であるとの認識を持っている専門家も多いです。災害時のトイレの情報共有は、各地域で創意工夫を行い、良い事例については、全区的に普及していけるような取り組みを考えていきたいです。

■その他

- ・小学校の跡地活用については、皆さんの意見を聞きながら有効な活用策を考えていきます。
- ・グループディスカッション形式のタウンミーティングは昨年度から始めています。自由参加で対象者を絞らず実施していますが、今後継続して実施していく中で、ご意見のような若者を対象にしたタウンミーティングなど、やり方の工夫を考えていきたいです。